

委員	項目	頁	計画（案） / 答申（案）の関係箇所	ご意見
小野委員 ①	資料3-5	6	朝食毎日食べている割合 (小学校6年生、中学校3年生)	調査人数は何人ですか？少ないのでは？
加藤委員 ②	社会情勢の 変化	4	(2)食生活の変化や社会のデジタル化の影響 (3)食品アクセスの問題の顕在化 (4)高齢化率の上昇	社会情勢の変化に対応する取り組みを探すことが出来ませんでした。(どこかに記載されていたら申し訳ありません) これらに対応する取り組み(可能と思われる取組)をコラム等に入れた方が良いのではないのでしょうか。 ※高齢者の関係は生活習慣病の箇所に記載されていますが、若い年代では肥満に焦点が当たっていますが、高齢者は低栄養を防ぐことが課題としてありますので、それらに対応した内容があった方が良く思われました。
加藤委員 ③	計画（案） 1 推進の 考え方	12	本計画のスローガンは「心も体も食べて育とう。北海道の食がつなぐ未来」となっているが、これに対応すると思われる共食(孤食ではない)の記載が後半の頁にみられない。	心も体も育む食ということでは、子どもの共食(個食ではないこと)は大切ですのでコラム等で記載した方が良く思われました。 ・ 資料を添付しますので参考にしてください。(以下に関係分を記載します) 国内外の研究で家族との共食頻度が低い児童生徒で肥満・過体重が多い報告がある。日本人では、孤食頻度が高い中学生は自覚症状の訴え(不定愁訴)が多い。 共食頻度の高い者は、野菜・果物・ご飯を食べる等、食物摂取状況が良好な傾向にあるため、国の第2次食育推進基本計画、健康日本21(第2次)から「共食の増加」が目標値として掲げられています。

委員	項目	頁	計画（案） / 答申（案）の関係箇所	ご意見
加藤委員 ④	計画（案） (1) 栄養バ ランスを考 えた食事の 実践	15 16	食事バランスガイドが記載されている。	国の食育推進計画では、前回計画から1食で食事バランスの良い食べ方を示すものとして「主食・主菜・副菜」を使っています。道内の自治体(札幌市、旭川市、石狩市、千歳市等)の食育推進計画では既に「主食・主菜・副菜」を使った内容が記載されています。 今後、道内で食育推進計画を策定する自治体もあると思いますので、本計画には、コラム等で「主食・主菜・副菜」の説明を記載した方が良いと思われます。
池田委員 ⑤	03-2 第2 回 安安委 (食育)	1	第5次北海道食育推進計画（案）の主な反映箇所 「オーラルフレイルの早期対応」	オーラルフレイルの早期対策としては、口腔の健康維持のためには、単なる口腔の検診や治療だけではなく、意識して会話や笑顔などで口や顔の筋肉を動かすことにつながる社会的な活動や娯楽を重視することが口腔の検診と同じくらい重要だと理解するのが適切だと思いますので、そのような視点の重要性も明記してもらえると良いように思います。
池田委員 ⑥	03-2 第2 回 安安委 (食育)	2	第5次北海道食育推進計画（案）の主な反映箇所 「備蓄食品が賞味期限切れとならないよう消費と補充」	備蓄食品や災害備品などについては道内外の自治体間や協力可能な民間組織間などで情報を共有し（横断的なデータベースを構築し）、災害時に相互に支援に活用することで、迅速な災害対応と無駄のない資源の活用につなげることができるのではないかと。機械的、定期的に備蓄食品や災害備品などを消費と備蓄をするだけでは大変もったいなく、有効的に活用すべき。

委員	項目	頁	計画（案） / 答申（案）の関係箇所	ご意見
池田委員 ⑦	食育計画 03-6 第5 次北海道食 育推進計画 (案)(修)	19	エ クリーン農業や有機農業に対する理解の促進（農：食品政策課） 「③YES! clean 農産物や有機農産物の学校給食での利用を促進します」	子供や生徒に選択の余地のない学校などの公的機関の給食に下水汚泥を使って生産した農畜産物などを食材として提供し、若い方や子供に食べさせることは大変無責任であり、かつ、残酷な行為にあたるのではないかと強く懸念致します。それらの農畜産物の食用を公的機関として推奨する場合は、一定の健康リスクがあり得ることを広く道民に周知するべきだと考えます。
池田委員 ⑧	同上	20	ア 農林漁業体験活動の促進、支援 ⑦ 道産木材を活用した箸や食器づくり体験など、食育・木育に関する普及啓発イベントを開催します。（林：森林活用課）	木育と同時に、農村地域におけるクリーン農業・有機農業などの持続的農畜産業の推進や都市部における廃棄物の丁寧な分別処理などが海産物を守ることもつながるということも食育のなかで道民に周知して頂きたい。